

平成 24 年の消費者物価の動き（概要）

小売物価統計調査及び家計調査をもとに作成した消費者物価指数(平成 22 年=100)について、広島市における平成 24 年の動きをとりまとめた。

小売物価統計調査:消費者が購入する商品やサービスの月々の価格の変化を明らかにするために、総務省が毎月実施している調査
 家計調査:世帯を対象として、家計の収入・支出、貯蓄・負債などを明らかにするために、総務省が毎月実施している調査

平成 24 年平均広島市消費者物価指数の概況

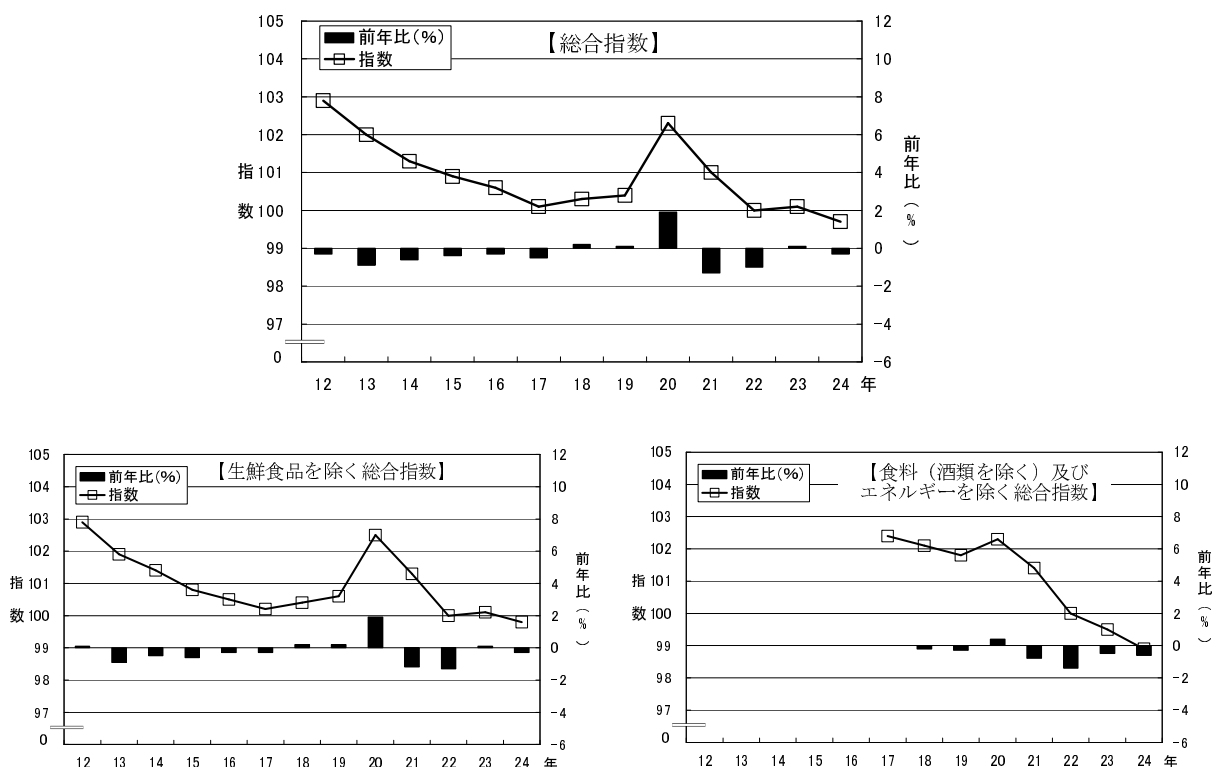
- 総合指数は 99.7，前年比 0.3%減となり，2 年ぶりに下落となった。
- 生鮮食品を除く総合指数は 99.8，前年比 0.3%減となり，2 年ぶりに下落となった。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は 98.9，前年比 0.6%減となり，4 年連続で下落した。

(1) 年平均指数の推移

全体の物価の動きを表す総合指数，天候による変動の大きい生鮮食品を除いた総合指数(平成 22 年=100)の近年の動きをみると，平成 17 年まで下落が継続していたが，平成 18 年には石油製品価格の高騰等を背景に上昇に転じた。平成 20 年には，前年比 1.9%と，高い上昇率を示した。反動により平成 21 年には前年高騰した石油製品価格等が大きく下落，平成 22 年も引き続き下落したが，平成 23 年は，石油製品価格等の影響を受け，3 年ぶりに上昇した。平成 24 年は，前年比 0.3%減となり，2 年ぶりの下落となった。

物価の基調を示す食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は，4 年連続で下落し，平成 17 年の指数作成開始以降で最低の水準となった。

図 1 総合，生鮮食品を除く総合，食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合の指数及び前年比（%）の推移（平成 22 年=100）



(2) 平成 24 年の月別推移

総合指数は、2月～4月は前年より高い水準となっていたが、5月の同水準をはさみ、6月以降、前年よりも低い水準で推移している。

生鮮食品を除く総合指数は、3、4月は前年より高い水準となったものの、5月以降は前年よりも低い水準で推移した。食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は、年間を通じて、前年より低い水準で推移した。

前年同月比をみると、総合指数、生鮮を除く総合指数及びに食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は、12月に最大の下落幅となっている。

図2 総合、生鮮食品を除く総合、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合の指数及び前年同月比（%）の推移
(平成 22 年=100)

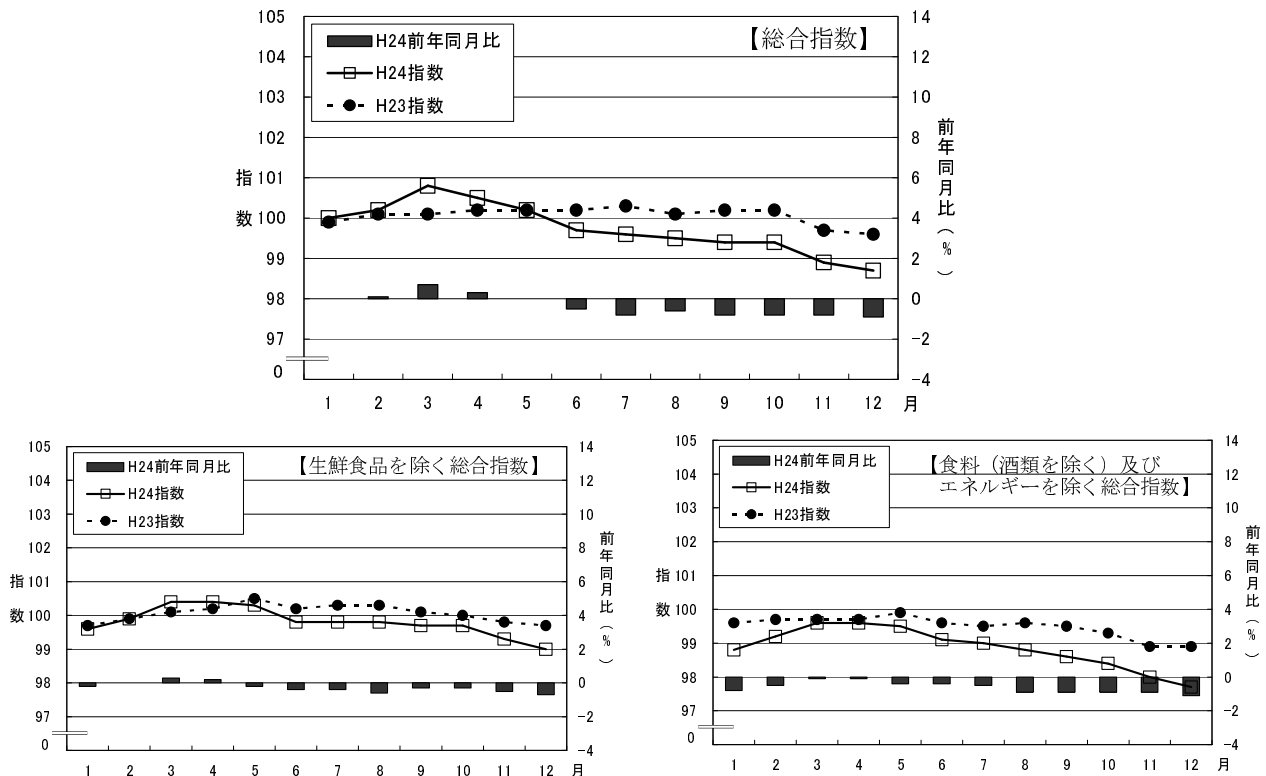
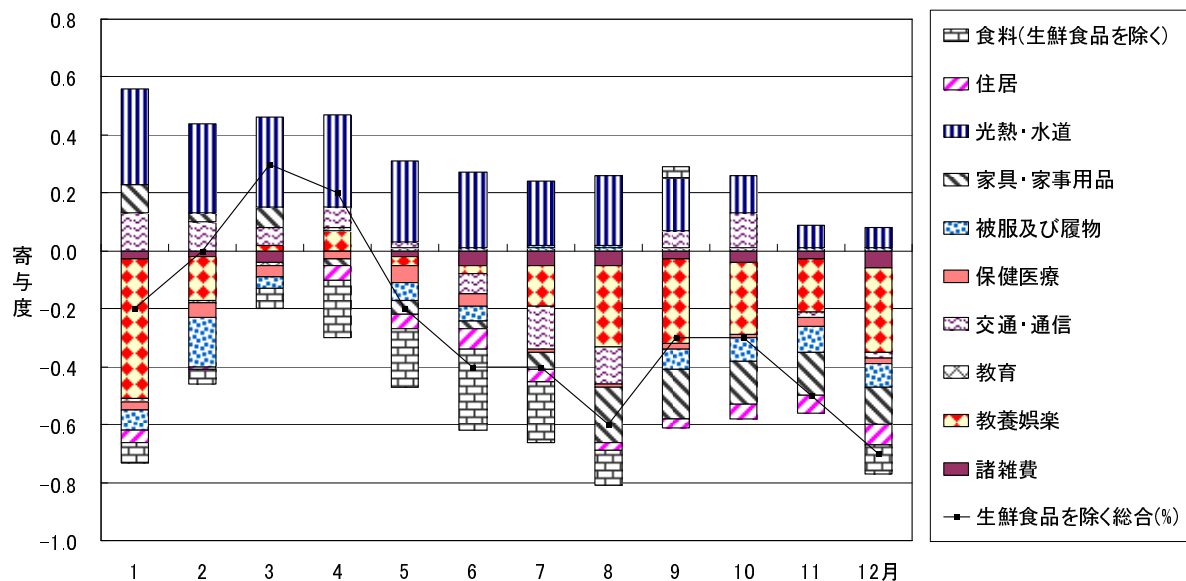


図3 生鮮食品を除く総合指数前年同月比（%）に対する10大費目別寄与度の推移



※『平成 24 年の消費者物価の動き（概要）』は、県ホームページ「広島の統計」に掲載しています。
ホームページアドレス <http://toukei.pref.hiroshima.lg.jp>